



企画・編集・発行／清里まちづくり協議会 事務広報部会
 清里まちづくり協議会事務局／〒370-3573 前橋市青梨子町339(清里公民館内) TEL 027-251-9005 FAX 027-255-0341

「清里まちづくりだんべえ部会」は、平成十八年に清里まちづくり協議会の発足と同時に「多くのイベントにだんべえ踊りで参加し、地区外の人に清里地区を知ってもらい地域を活性化」を目的とし活動をスタートしました。

現在は、大人18名、子ども18名で活動しています。コロナ禍で公民館のホールが使えない状況が続く、活動も休止状態でしたが、コロナウイルス警戒度が下がり、ホールが使える様になり活動を再開しました。現状では、今年度の行事は、中止が決定しているため、出演目標がないまま練習を行っている状況です。来年度、各行事が実施可能になることを想定して活動をしていきます。(桜井)



駒寄インターチェンジ下り線側誘導路

【新年のご挨拶】
 新年を迎え、清里の皆様明けましておめでとうございます。
 昨年、新型コロナウイルスが世界中に拡散し、国内では陽性者が急増し、世界に誇る医療体制が崩壊寸前となり、感染者が自宅療養という最悪の状態になりました。四月から高齢者へのワクチン接種が始まり、十月末で対象者の接種率が七十パーセントとなり、十一月に入り感染者が急激に減少し、群馬県の警戒度が1まで下がりました。

皆さんも家庭で巣ごもり状態になっていたと思います。新年を迎え、今年はいよいよ三回目のワクチン接種が続きます。多くの皆さんが接種していただき、重症化と感染拡大を防ぐことが大切です。第五波の教訓から得られた経験と知識をもってこれから十分な対策を取っていただき、社会活動が出来るように願うばかりです。

さて、地域の明るい話題として、池端町を東西に通過する南新井・前橋線が十月に開通いたしました。併せて駒寄インターも大型車両が乗り入れ可能となり、伊香保温泉へのアクセスが便利になりました。さらに、清里南北幹線道路やインター周辺は「ジョイフル本田」や「産業団地(二十ヘクタール)」の計画が着々と進んでおります。五年後には風景が一変し、周辺環境が見違えることとなります。

最後に皆様の健康をお祈りして、これからの「清里まちづくり活動」にご協力をお願い申し上げます。

【八幡宮秋祭り野良犬獅子舞奉納】 10月10日清野町八幡宮で八幡宮秋祭り(例大祭)が開催され、野良犬獅子舞が奉納されました。清野町の小学5、6年生を中心に男子が舞手、女子は笛を担当し披露されました。

清野町獅子舞保存会長の蜂巣さんにお話を伺いました。昨年は、コロナ禍の影響で練習が思う様にできず、大人だけで1日間練習を行い獅子舞奉納したそうですが、今年は、小学生による獅子舞奉納ができました。例年だと7から8日間練習を行うのですが、今年は、4日間しか練習日が取れなかったため、棒使いの舞は、過去の経験者が代わりに行ったとのことでした。

野良犬獅子舞は、昭和48年に市指定重要無形民俗文化財に指定されています。清野町の八幡宮に伝わる獅子舞で、慶長年間(1600年頃)吉岡町の下八幡宮から伝えられたと言われています。

野良犬獅子舞は、子ども達が地域の指導者に指導してもらい引き継がれています。祭での奉納の他、地域の文化祭などでも地域に披露されています。

野良犬獅子舞奉納の動画は前橋市公式YouTubeチャンネルで見ることが出来ます。(桜井)

前橋市公式YouTube「野良犬獅子舞」QRコード



だんべえ部会活動再開

「清里まちづくりだんべえ部会」は、平成十八年に清里まちづくり協議会の発足と同時に「多くのイベントにだんべえ踊りで参加し、地区外の人に清里地区を知ってもらい地域を活性化」を目的とし活動をスタートしました。

現在は、大人18名、子ども18名で活動しています。コロナ禍で公民館のホールが使えない状況が続く、活動も休止状態でしたが、コロナウイルス警戒度が下がり、ホールが使える様になり活動を再開しました。現状では、今年度の行事は、中止が決定しているため、出演目標がないまま練習を行っている状況です。来年度、各行事が実施可能になることを想定して活動をしていきます。(桜井)

- 練習日時**
- 練習は清里公民館ホールで、第一木曜日、第三木曜日の19時30分〜21時の予定で行っています。(都合により変更になる場合もありますので、清里公民館へ問い合わせください。)
- 練習している踊り**
- ① だんべえ踊り
 - ② よつちよれ
 - ③ パプリカ
 - ④ 夏祭り
 - ⑤ ペコリナイト
- 過去の出演履歴**
- ① 清里ふるさと祭
 - ② 文化祭
 - ③ 前原文化祭
 - ④ 前橋まつり
 - ⑤ 老人介護施設等からの出演依頼

新規メンバー募集のお知らせ

現在、「まちづくりだんべえ部会」の新規メンバーの募集をしています。入会希望者は、清里公民館内の清里まちづくり協議会事務局、または、既存のメンバーへ声をかけてください。興味のある方は、練習の日に見学に来てくださいます。親戚で一緒に踊りたい方も歓迎です。私達と一緒にお楽しみください。お待ちしています。



過去に発行した「清里まちづくり広報」は、前橋市のホームページで検索することが出来ます。下のQRコードをスキャンしてみてください。

◆地域づくりのスタートにあたって
 清里地区自治連合会会長 松下博寿
 平成十八年四月より、清里地区においての地域づくり運動がスタート致しました。

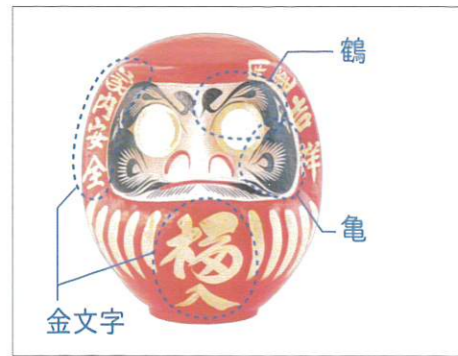
前橋市では、行政と地域が一体となった地域づくりをめざすため、平成十八年度は五地区をモデル地区に指定し、その中に清里地区も含まれております。それを契機として、清里地区を基本テーマとして活動を行うことになりました。

少子高齢化社会を迎え、清里地区も例外なく、少子高齢化が進んでおり、子育て、防犯・防災活動をはじめ、全てにおいて地域住民がお互いに助け合っていくことが、より感じ得ていくために、又、両三軒一組という考えで、家族の心が一つとなれる地域づくりを推進し、地域を活性化させてまいります。

「清里まちづくり広報」は、創刊から62号を迎えました。清里まちづくり協議会は、「心豊かで、活力あるまちづくり」を基本テーマとして平成十八年に活動がスタートしました。創刊号は、翌年の六月に地域のみならず、清里まちづくり協議会の活動を知って頂くことを目的として発行となりました。コロナ禍が落ち着いた今、改めて初心に戻り、活動を再開して行ければと思います。(桜井)

【だるまの雑学】

(1) 縁起だるまと言われる理由



「眉毛は鶴、鼻から口ヒゲは亀」縁起の良い二つの動物をお顔に表現した高崎だるまは「縁起だるま」とも呼ばれています。清里地区も含め群馬県は昔から養蚕が盛んだった地域です。蚕は繭を作るまでに4回脱皮しますが、蚕が脱皮し桑を食べ始めることを「起きる」、上簇(熟蚕を簇(まぶし)に移す作業)を「上がる」と言います。だるまの起き上がりは、蚕に関する語呂合わせです。養蚕が盛んだった時代には「だるま」に「蚕大当り」と書き込みましたが、現在は「家内安全」「商売繁盛」「交通安全」などの文字が書かれています。

(2) 目の入れ方

「だるま」の眼は、願いを込めながら、向かって右側(だるまの左目)に入れます。そして願いが叶ったとき、または1年間無事だったら、向かって左(だるまの右目)に眼を書き入れます。左目から入れると分かっていても、間違えて右目から入れてしまうこともあると思います。間違えたからといって心配することはありません。願いが叶ったら左目を書き入れましょう。

(3)だるまの供養

願いが叶って両目の入った「だるま」は、供養してもらいましょう。神社などに持っていけばお炊き上げをしてくれる場合もあります。清里地区では毎年、道祖神祭がありますので、そこで供養してもらいましょう。(今年は、1月15日が小屋掛け、1月16日が点火の予定になっています。詳しくは、毎戸配布のチラシをご覧ください。)

【上青梨子 淡島神社「元始祭」だるま市】

上青梨子町の淡島神社では、毎年1月3日に「元始祭」が行われ、「だるま」が販売されます。売り子は、神社の氏子が行います。毎年、約110個の「だるま」を売り上げるとの事です。今年のだるま市の日程は下記の通りです。

淡島神社だるま市の日程

令和4年1月 3日(月) 午前9時から午後1時まで



1号から5号までのサイズを販売



淡島神社社務所

淡島神社について

和歌山県の淡島神社を勧進して祀ったものと言われている。古くは神明宮とか大木神社といわれた。祭神は天照大神のほか。明治45年に村内にあった淡島様や琴平様を合祀し村社とし大木神社と改めた。昭和35年に氏子の総意で淡島神社と改められた。女性の病気と縁結び、子育てに特別ご利益があると言われている。

【変わりだるま】

通常の「だるま」と同じ成形型を利用し、着色、顔描きを変化させて、「変わりだるま」を作っている工房もあります。いくつかの製作例を並べてみます。同じ「だるま」型には見えません。

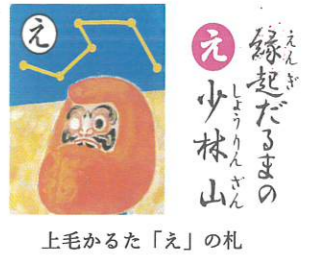


参考文献：少林山ホームページ、群馬県達磨製造協同組合ホームページ

取材協力：木村だるま店、淡島神社総代

特集： 高崎だるま

正月の風物詩として、毎年「だるま市」が開催されます。代表的なものでは、高崎だるま市、前橋初市祭り(だるま市)、少林山の七草大祭だるま市があります。清里地区でも小規模ですが、淡嶋神社境内で毎年1月3日に行われる「元始祭」で、だるま市が行われます。清里地区は、高崎だるまに縁があります。上青梨子地区には、だるま製造を行っている「だるま店」があります。また、少林山住職の廣瀬さんの母方の祖父は、青梨子町前原の生まれです。そんな事から「高崎だるま」を特集してみました。(桜井)



上毛かるた「え」の札

【高崎だるまの起源】

高崎だるまの起源には諸説あるようですが、まとめると以下の様になります。

天明3年(1783年)に浅間山が大噴火し、その影響で天明の大飢饉が起こりました。

少林山9代目住職の東嶽(とうがく)和尚は、付近の農民を救うために、木型を彫り、張り子の「だるま」の作り方を豊岡村の山縣友五郎に伝授しました。そして、正月七草大祭の縁日で売られる様になりました。これが高崎だるまの始まりです。

当時は、色塗りの材料が手に入りにくいため生産数は少なかった様です。

1859年の横浜港の開港で、海外から赤の顔料が輸入されるようになり、徐々に「だるま」の生産者が増えていきました。

【病気除けとしてのだるま】

だるまの広まりは、江戸で天然痘が流行したことに由来します。赤いものが邪気を払うと信じられていたため、赤く塗られた「だるま」が求められるようになりました。

【だるまの製作工程】

1. 生地づくり

昔は手作業で、「だるま」の木型に一枚一枚、材料の紙を張って成形していました。非常に手間のかかる作業です。現在は真空成形という方法が中心で、紙を溶かした水槽に「だるま」の型を入れ、水分をコンプレッサーで吸い出し成形します。最後に「だるま」の底にヘッタとよばれるおもりをつけて完成です。



2. 着色

成形品に着色をします。最初に下塗りとして、「だるま」全体に胡粉(貝を焼いた白い粉)を塗ります。次に「だるま」の色である赤色を塗ります。昔は刷毛で塗っていましたが、現在は塗料の入った容器の中にだるまを浸して着色したり、スプレーで吹きつけたりします。また、昔は赤い顔料を使っていたため、変色しやすかったのですが、今では油性のラッカーを塗るため、光沢があり、色落ちも少なくなりました。



3. 顔描き

この作業だけは昔も今も同じで、全て手作業で行なわれます。まずは「だるま」の目の回りにぼかしを入れ、白目を塗り、小鼻と口を描きます。その後、墨汁で鶴を模した眉毛と亀を模した口ひげを描きます。最後に胴に金彩を施し、「福入り」「家内安全」などの文字を描いて仕上げとなります。

